

## Amir Tsarfati 氏 中東情勢アップデート 2018年 2月 10日公開

.....

皆さん、シャローム。アミール・ツアルファティです。自宅に戻って、ガリラヤにいます。今日の出来事をまとめて、正しいバランス、正しい視点からお伝えしたいと思います。今日の出来事に関して、あまりにも多くの間違った情報や、偽の情報が出回っていますから。多くの方から、今日起こったことを段階的に伝えてほしいと要望があって、溢れかえる情報の中で、訳が分からなくなってしまった人がたくさんいるのではないかと思います。ですから、今日はあと数分間視聴者が揃うのを待ってから、今日のことについてお話して、実際に何が起こったのか、なぜ、これほど重要なのかを理解していきたいと思います。

今日、私は面白いことを考えていたのです。私はこれまで「Watchman/見張り人」という言い方をしてきましたが、私たちは確かに城壁の見張り人で、今後迫りくることを理解しています。私たちには、この先に起こる事が前もってわかる特権が与えられているので、人々に警告を与えることが出来ます。しかし、私たちはまた「ビジネスマン」ということもできるのではないかと思うのです。私たちは、御父のビジネスに勤しんでいますから。私たちは皆、ビジネスマンです。御国のビジネスマン、あるいはビジネスウーマン。ですから、私たちは見張り人/Watchmanであり、またビジネスマンです。私たちは、御父のビジネスを行うビジネスマン。

人に

「お仕事は何をされているのですか？」

と聞かれたら、

「ビジネスマンです。」

と答えられるでしょう。

「父のビジネスを行うビジネスマンです。」

「何のビジネスですか？」

「私の父のビジネスです。私の父のビジネスは、あなたには、主が必要なこと、あなたは救われなければならないことを、あなたに伝えるのです。」

これは良い考えだと思いませんか？

ということで、アメリカからたくさんの方がご覧になっていますね。今日はこれまでで一番頻繁に、フェイスブックで報告した日でしょう。しかし、皆さんにとっても、とても重要な事だと思ったのです。

では皆さん、今日の出来事を、通して見ていきたいと思います。皆さんがご存じないこともたくさんあるはずなので、この数時間の間にまとめてみました。今回は、すごいことでした。我々は、イスラエルとシリア内のイランとの間で起こっている事に、常に注意を払っていますから。皆さんが、次のことを理解しておくのは、とても重要です。我々と彼らの間で、これら全てのことが起こっている間にも、ロシアの戦闘機に援助されたシリア政権は引き続き…もうすでに6日目になりますが、ダマスカス近隣のいくつかの町で、想像を超える壊滅を行なっていて、この6日間で700人以上の人が死亡しています。彼らにとっては、国全体で起こっていることに比べれば、今日起こったことなど何でもないでしょう。スルタン・エルドアンは戦車や武装車を乗り入れ、イドリブの町を包囲しています。イドリブの飛び地、シリア北部です。このように、シリア国内でのトルコとイランの確立は、私たちが想像できる範囲をはるかに超えています。そして、これがまさに、イスラエルが世界に警告してきたことで、我々はロシアにも、アメリカにも、国連にも、EU（ヨーロッパ連合）にも伝え

ました。

「我々は、イランがシリア国内に確立することは許さない。彼らは何をするか、我々には、はっきりと分かっている。まさに、今朝起こったように、彼らは状況を利用して挑発するのだ。」

今朝のことを説明しますと、彼らは、我々を不意打ちした、とっていたのです。そして、彼らのドローンを、我々の領土に送り込んだ時に、そのドローンが離陸した発射台と司令塔を破壊するために、我々がF-16を送り込めば、彼らは、我々の戦闘機を破壊することが出来る、と考えました。これに対して、言いますと、確かに、我々の戦闘機が一機、撃たれました。確かに、パイロットは戦闘機を捨てて、緊急脱出しなければなりませんでした。確かに…ところで、飛行機は私が住んでいるところから約24 km離れたところに落ちました。しかし、パイロットは2人とも無事でした。そして、その3時間後に、何が起こったかを見てください。事の始まりは、今朝、大体午前4時頃に、ドローンが軍用飛行場を離陸しました。我々との国境から400 km近く離れたところでは、我々は、ドローンがこちらに向かって来ていることに気づきました。そして、ドローンがイスラエルに到達するずっと前に、我々はイスラエル北部で、主に空軍ですが、イスラエル軍の軍事活動が行われているのを感じていました。このドローンが非常に精巧なものである、と我々が気付いた時、——ちなみにドローンは、イランが迎撃した、アメリカのステルスドローンとそっくりでした。覚えているでしょうか？まるで「爆撃機 B2」のようです。興味深いことに、イランがアメリカのものを複製して、現在それを使用しているのです。ということで、我々はそのドローンを迎撃しました。初め、我々はそのドローンの形を見たときは、アメリカのもののように見えたので、しばらく触れずにいました。それから、アメリカのドローンが周辺を飛ぶ目的を探りました。そして、これはイランが作ったアメリカのドローンの複製、もしくは偽物だと気付いた時、それを追跡し始めたのです。このドローンは高速飛行で、しかも低空飛行します。だからイスラエルはF-16を使わず、アパッチヘリコプターを使ったのです。そして、我々はそのドローンを撃墜した瞬間、その炎が原因で、ベイト・シェアン地域、ヨルダン渓谷北部全体で空襲警報が鳴りだしたのです。その後、4機のF-16がイスラエル南部のラモン空軍基地から離陸しました。このF-16は、F-16D といって、乗組員が二人のもので、ほとんどのF-16はパイロット一人ですが、これは兵器システム操者とパイロットが搭乗する飛行中隊です。それが4機、奥の標的に向かっていきました。400 km先のシリアの中心、これは、この数年間でイスラエルが仕掛けた攻撃の中で、最も離れた場所です。我々は塔を破壊し、そのドローンの最新指令センターを破壊しました。それは「T4」とも呼ばれる、シリアで2番目に大きいティヤス空軍基地にあります。パルミラとホムスの間にある、シリアの奥深くです。その空軍基地の一部に、イランが手をつけている場所があって、我々はそれを知っていますが、彼らは、人と器材の両方をイランからイラク、シリアに運ぶために、そこを利用しています。そして、そこがISISから解放されるやいなや、シーア派のテロリストがそこに到着、そこを通過して、東部の前線に移動して、ISISと戦っています。今週、彼らはアメリカと戦いましたが、アメリカは誰がボスであるかを見せつけ、彼らのうちの100人以上を殺害しました。また、別のイスラエル空軍の襲撃で、我々はバッシュール・アサドの、最も重要で最大の空軍基地 El-Mezzeh と、さらにアサドにとって非常に重要な軍事空港を、2つ破壊しました。これによって、明確なメッセージを送りました。

「イスラエルは、シリア国内にある、イランの標的全てに諜報機関を置いている。そして、イスラエルはためらうことなく、それらすべてを破壊する。」

オリジナルのF-16、4機のうち1機が、シリアの対航空機ミサイルによって撃たれましたが、ミサイルは25発以上が発射され、これらの飛行機雲はテルアビブからそう遠くない場所で観測されました。このために、イスラエルの国際空港がしばらくの間、閉鎖になったのです。F-16は、私の家から10マイルほど離れた場所に

捨てられ、パイロットは緊急脱出しました。一人は軽傷、もう一人は重傷を負いましたが、容体は安定し、回復に向かっています。ここで面白いのが、レバノンやシリアが、イスラエルのF-16を撃墜したことに大喜びしているのです。しかし、実際に起こったことを見れば、今日、大勢のイラン人が撃たれました。今日、イランの標的がたくさん攻撃されました。そして、何が起きたかという、イスラエルの実に聡明な動きで、そのドローンを利用して、これまでは、我々がしたくても出来なかったことを行なったのです。つまり、ダマスカス周辺の、ほとんどの対航空機砲台を破壊しました。これは恐らく、1982年以降、イスラエルが行なった最大の軍事行為でしょう。1982年以来、最大の空軍の攻撃です。お分かりですか？これは歴史に残る話です。私たちが理解しておくべきなのは、我々が、これらのことに対処している間に、トルコが前進、この政権によってダマスカス近隣は、完全に破壊されています。そして、またしても、毎日毎日何百人という死者が出ているのです。彼らは、注目を他に逸らすために、イランは…皆さん、これもご存じないでしょうが、イランは自国が大変なことになっています。物凄い数の敵対者、ものすごい数の…皆さんは知らされていないでしょうが、政権に反対するデモが、たくさん起こっているのです。そして、私が出た情報では、イランのメディアを見聞きする限り、彼らは、今日起こったことを快く思っておらず、アッヤトーラがまた一つ、不必要な戦争に国民を巻き込んだ、と言っているのです。イスラエルは、世界とロシア、それから当然イランに、非常に明確な信号を発信しました。

「我々は、我々の主権を犯すものは一切容認しない。ドローンであれ、飛行機であれ、ロケットであれ何であれ、我々の領土へ侵入することは、一切許さない。」

面白いことに、今週、すごく良い天気週末でしたから、物凄い数のイスラエル人が、イスラエル北部にいて、ホテルや休暇村、リゾート地などは満員でした。これら全てのイスラエル人が、自然保護区や、観光地や、国立公園を訪れていて、どこも人でいっぱいだったのです。イランがやろうとしたことは、上手く行きませんでした。イスラエル人はどこにも逃げず、どこにも行かず、事実私たちは、イスラエルで、気候に恵まれた美しい週末を楽しんでいたのです。シリアでは、何百人という数の自国民を虐殺しているときに、イスラエルでは、人々が素晴らしい週末を過ごしていました。

確かに、状況はエスカレートしています。

確かに、イランが以前は出来なかったことをしようと狙っています。

確かに、イスラエルが再度攻撃に向かうときは、慎重に考えなければなりません。

確かに、あのドローンの目的を、我々は調べなければなりません。

そして当然、我々は、味方であるアメリカと、その情報を共有します。これは、イランが撃墜した、アメリカのドローンの複製ですから。

確かに、この全状況から我々が学ぶべきことはたくさんあります。しかし、結局のところ、我々はここ、イスラエルで、今夜もぐっすりと眠ります。イランと、シリアの対航空機ミサイル砲台のほとんどが破壊され、なくなりましたから。シリア国内で最も重要な軍事空港のいくつかは、激しく破壊されました。ですから、最終的には、確かに我々は戦闘機を失いましたが、パイロットは無事です。しかし、シリアはその報いを受けていますし、シリア国内のイラン軍も、その報いを受けています。ですから、私が思うに、良い事と悪い事のバランスを見てみると、もしイランが、過去にさかのぼって、その後起こる結果を見るなら、過去に戻れるなら、彼らはあのドローンを送り込みはしないでしょう。あの、イスラエルのアパッチヘリコプターに撃墜された小さな鉄の塊のために、シリア国内で最も重要な彼らの資源が、今日、破壊されたのですから。イスラエル政府の動きは、実に聡明でした。彼らは待たず、あの機会を利用して、我々が常にしたくても出来なかった事を実

行するのに、十分な理由としたのですから。私が思うに、イラン人たちは…皆さん、覚えておいてください。我々の敵が、外に出てお祭り騒ぎをしているときは、彼らが負けたからですよ。彼らがわれわれと戦った、1947年以降の全戦争で彼らは負けました。それなのに彼らは、毎年毎年、勝利を祝っているのです。その理由は、私にはよく分かりませんが、今やインターネット、フェイスブック、ツイッターの時代で、以前は分かり得なかった事もわかりますから、国民も少しは気づき始めているはずですよ。アラブ政権は、国民が馬鹿だと本気で思っています。しかし、人々はもう、馬鹿ではありません。人々はもはや、暗闇にはいません。人々は、何が起こったのか、はっきりと理解しています。現在、イスラエル北部では大渋滞が起っていますよ。人々が美しい週末を終えて、テルアビブの家に戻って行くためです。

確かに、大きくエスカレートしています。

確かに、イランは我々を試しました。

確かに彼らは、あれは賢い行動ではなかったと気付いたと思います。

ただ、皆さんに知っておいてほしいのは、イスラエルに手を出すということは、彼らにとっては、ほぼ自殺行為であるということ、今の時点で、あちら側では誰もが理解しています。バッシュール・アサドとロシアは、ダマスカスの上のいたるところで、スンニ派全員を爆撃しています。あちらでは、膨大な数の人たちが惨殺され、殺害されています。そして、わたしが思うに、ロシアも、アメリカさえも、イスラエルの報復は激しく、徹底的で、我々はこのようなことは一切容認しないということを理解したでしょう。

もう一つ、私たちが理解しなければならないのは、この全攻撃は、戦略的なものでした。ロシアは、地上にイラン軍が必要でした。しかし、イランがシリア内に確立することに、彼らはさほど興味がありません。そして今回起こったことで、ロシアは色々なことを言っていますが、イスラエルは、すべき事をしたのだということ、彼らは理解しています。ネタニヤフ首相は、ロシアの大統領に実に明確に伝えていきますから。

「もし、我々が攻撃されるなら…」

ところで、それが迫っていることは、我々には見えていますよ。この数日間、私自身も、北部の状況のエスカレートを伝えてきましたし、数日前に、ネタニヤフ首相が北部国境を訪れて、言いました。

「我々は、戦争を起こしたいわけじゃない。しかし、戦争がやむを得ないなら、我々は確実に戦う。」

だから、戦争が起こる事は、我々には見えています。何かが整いつつあるのが、私たちに見えています。ただ、我々は、断固として力づくで、ためらうことなく行動します。今回のことは、素晴らしかったと思います。それから、彼らは、まだ恐れている、と私は思います。彼らは、我々には関わりたくないだろうと思います。皆さんもご覧のとおり、中東では、たった一人の指導者の愚かな決断が、全域を火の海にし得るのです。皆さん全員にもう一度お伝えしておきます。私たちは、ダマスカスに目を向けておかなければなりません。ダマスカスに注目しておいてください。なぜかといえば、イランがしている事、ロシアがしている事、トルコがしていることは、次から次へと扇動を生み出しているのです。それは、私たちにに対してだけでなく、自国民に対して、です。ですから、時が来て、イスラエルが脅威に対処しなければならない時には、例えば、——化学であろうが、生物であろうが、その脅威を取り除くために、必要であれば、我々はダマスカスを完全に根絶することに、一切躊躇しません。皆さん、それに関して、まだまだお話は出来ませんが、事態はどんどん複雑になる一方です。どんどん近づく一方です。今日、私が話をした人の、誰もが言っていたのは、

「今日のように、エゼキエル戦争が、ここまで近くに感じたのは初めてだ。」

今日、私たちが目撃したのは、エゼキエル戦争の予行演習です。このようなことが、火付けのマッチになり得

るのです。そこから、ダマスカスの滅びに繋がり、我々に攻め込む国々へと直結して、戦争にエスカレートします。先日、ある人に言われたのは、

「アミールさんは、いつもイラン、トルコ、ロシアの話はしているけど、スーダンやリビアのような、他の“エゼキエル 38、39 章”のメンバーについては、話しませんね？」

まず、私は彼らについても話していますよ。スーダンは現在、トルコと協力していて、リビアにはロシアも ISIS もいます。ですから、現在スーダンとリビア、この2つのアフリカの国は、彼らだけがアフリカの中で、イスラエルの存在に反対している国であり、必要ならば、問題なくロシア、イラン、トルコの悪の枢軸に参加する国です。

ということで、確かに、物凄くエスカレートしています。

しかし、…1つ良い事をお話ししましょう。

今日、私は、ツアーの皆さんを死海写本館へお連れしたのです。そこで、2,200年前の写本を見ました。イザヤ書、詩篇、その他預言書の写しです。それが、これら2,200年前の写本と、現在の私のヘブル語の聖書の間に、一切違いがないのです。聖書は信頼出来、正確で、事実に基づいています。それから、続いてエマオに行って、そこで私は、ルカの福音書 24 章の、エマオに向かって歩いていた弟子たちについて教えました。あのとき、彼らに、イエスを見えなくしていた1つの事、彼らに、イエスについて、理解させないようにしていた、1つの事がありました。それは、彼らに預言者によって語られた事を、彼らが信じなかったことです。

## 25 するとイエスは言われた。

「ああ、愚かな人たち。預言者たちの言ったことすべてを信じない、心の鈍い人たち。」

(ルカ 24:25)

そこで私が思うに、私たちの問題は、あまりにも多くのことが起こるのを見ていながら、人々が信じない。預言者は、まさに現在の出来事について、語っていたのです。2人の弟子が歩いていた時、突然イエスが現れました。彼らは何を話していたのか？彼らは当時の出来事について、話し合ったり、論じ合ったりしていた、と聖書にはあります。2,000年前の情勢です。そしてイエスは、彼らにいわれました。

「ああ、愚かな人たち。預言者たちの言ったことすべてを信じない。」

つまり、彼が言っているのは、

「あなたがたは、聖書預言の観点、預言者の観点から、情勢を正しく理解していない。あなた方は愚か者だ。」これはまさに、今日の私たちに言えることです。今日起こったことは、預言者の言葉に100%当てはまることを理解していない。彼らに、主を見えなくさせていたもの、主が、彼らのすぐ横に立っておられるのに、彼らが主を認識できなかったのは、彼らの不信仰です。聖書には、イスラエルが心を頑なにしたから、神が彼らに、鈍い心と見えない目と聞こえない耳を与えられた（ローマ 11:8）とあります。不信仰、心の頑なさが、人々の目を見えなくし、理解しないようにしているのです。神の御心は、全ての人が、主のご計画を知る事です。聖書には、神は「終わりの事を初めから告げ」（イザヤ 46:10）とあります。パウロは、第一テサロニケ人への手紙でこう告げています。

1 兄弟たち。それらがいつなのか、またどういう時かについては、あなたがたは私たちに書いてもらう必要がありません。

## 2 主の日が夜中の盗人のように来るといふことは、あなたがた自身がよく承知しているからです。

(第一テサロニケ 5:1~2)

何が起っているのか、私たちは、良く承知していなければなりません。そしてもし、私たちが御言葉をよく知っていれば、彼らに書いてもらう必要はないのです。パウロが、テサロニケの人々に何かを書いた時、彼は、新約聖書の話をしたわけではありません。彼は旧約聖書の話をしているのです。彼は、旧約聖書の預言について話しているのです。彼は、エゼキエル、ゼカリヤ、エレミヤなど、こういった人たちの話をしているのです。2,000年前の人たちの話を知っていながら、私たちが、預言者の言葉を信じないとは、何と愚かなことでしょうか。彼らは、信じなかったのです。彼らは、聞いていたのに。彼らは、聞いて聞いて、それでも信じなかったのです。そこで、皆さんを励ましたいのです。皆さんが今、どこにおられるのかは、私には分かりません。エマオへの道は、失望した人の道、恥の道、不信仰の道、混乱の道。彼らは、イエスについて理解していなかった。彼らは、その目的を理解しませんでした。それは、主が、彼らの期待にぴったり合わなかったからです。しかし彼らは、エマオで主に出会ったのです。彼らの目が開かれ、それが主であると気付いた瞬間、当時そこに住んでいた、あらゆる人々のアドバイスに反して、彼らはすぐにエルサレムに歩いて戻りました。

そこで今日、わたしから皆さんにお聞きします。

あなたは、どこにいますか？エマオですか？それとも、エルサレム？あなたは信じず、心の鈍い愚かな者ですか？だから、あっちに逃げているのですか？主が、あなたの期待に合わなかったから、恥ずかしいですか？それとも、あなたは信じ、ワクワクしていますか？今、これらのことを理解したから。ワオ！時が近づいている！聖書には、コロサイ人への手紙にこうあります。

- 1 こういうわけで、もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこにはキリストが、神の右に座を占めておられます。
- 2 あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。

(コロサイ 3:1~2)

私たちは、現在の情勢によって動かされたり、恐れたり、パニックになったりしないのです。私たちは、心を定めて、上にあるものを求めます。何を？父の右に座を占めておられるキリストを、です。キリストご自身が、ヨハネ 14:3 で、弟子たちに言われました。

- 3 わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。

(ヨハネ 14:3)

面白いと思いませんか？主は、こう言われているのです。

「もし、わたしが行けば、わたしはまた戻って来る、とあなたがたは知っている。」

別の言い方をすれば、

「私の昇天、わたしが、父のところに行くことが、あなたがたにとっては、わたしが戻って来ることのしるしとなるのだ。」

もし、わたしが行くなら、わたしは戻って来る。彼は行かれました。彼は、今どこですか？御父の右におられます。それは、彼が戻って来られることを意味しています。そして、彼が花嫁を迎えに来られるとき、彼は私たちを迎えに来られるのです。1週間後かもしれませんし、1時間後かも知れません。1か月後かも知れない

し、2年後かも知れません。私たちは、用意しておくのです。いつでも行けるよう、準備をするのです。同時に、私たちはビジネスマン、ビジネスウーマンになるのです。そして、御父のビジネスに勤めます。ということで、私たちは Watchman/見張り人です。私たちは、何が起こるか、知っていますから。だから、人々に警告するのです。そして私たちはビジネスマンです。御父のビジネスに勤むのです。私たちは、御言葉を広めなければなりません。人々に伝えるのです。希望はある、平安はある、いのちはある、そして道もある。それも、道は1つです。面白いのは、ヨハネの福音書で、「あなたがたは、道を知る。」とイエスが言っておられます。そして、使徒の働き8章で、パウロは「この道の者」を追っていたのです。つまり、道は1つだけ。それは、主イエスです。

他に道はありません。他に真理はありません。他にいのちはありません。彼を通してでなければ、誰も父のところへは行けません。私から皆さんに言えるのは、政治にこだわることもできます。経済に、人間関係に、心理学にこだわることもできますし、何にでもこだわれるのです。しかし、もし、あなたが信じていないなら、御言葉を信じてください。イエスは、彼が私たちを真理で清める、と言われました。そして、真理とは、神の御言葉です。ですから、真理は、神の御言葉の中にしかありません。そして、神の御言葉は、事実に基づき、正確で、信頼できます。それは、昨日も、2,200年前も同じ、今日も、永遠に同じです。だから私は、プーチンの言葉を信じません。私は、イラン人の行動を信じません。私は、政治家も、軍隊も、政治評論家も信用しません。どの国であれ、経済も信用しません。私は主を信頼し、そして、信じます。彼が、起こると言われた事は、全て起こる、と信じます。まさに、過去にすべての事が起こったのと同じように。これを、イエスはエマオの途上で、弟子たちに言われたのです。

**27 それから、イエスは、モーセおよびすべての預言者から始めて、聖書全体の中で、ご自分について書いてある事がらを彼らに説き明かされた。**

(ルカ 24:27)

そこで彼らは気づいたのです。

「ワーオ！彼が“女の子孫”だ！」

「そうだ！ワオ！彼がモーセよりも偉大な方だ！」

「そうだ！ワーオ！彼が処女から生まれた方だ！」

「そうだ！ワーオ！彼がベツレヘムで生まれる方だ！」

「ワオ！彼は、来て、希望をもたらし、とらわれ人を解放する方だ！」

「ワーオ！彼は、私たちの罪のために死に、そうだ！よみがえった方だ！」

「そうだ！彼が私たちを迎えに来てくださる方だ！」

「そうだ！彼が、私たちと一緒に戻って来られる方だ！」

これら全てを、私たちは信じなければなりません。そしてもし、私たちが信じれば、彼は言われました。

**1 …神を信じ、またわたしを信じなさい。**

(ヨハネ 14:1)

それだけです。そして、イエスはヨハネの福音書17章で、こう言われました。

15 「父よ。彼らをこの世から取り去ってくださるようというのではなく、悪い者から守ってくださるようお願いします。」

(ヨハネ 17:15)

イエスは、神に、私たちを取り去ってくださるようには言いませんでした。時が来れば、彼が来て、私たちを取り去ってくださるのです。しかし、彼は父に、私たちを悪い者から守ってくださるよう、と言われました。つまり、私たちがここにおいて、御父のビジネスに勤しむべき時期があって、その時は、彼が私たちを防衛し、守ってくださいます。しかし、時が来れば、彼が来て、私たちを取り去ってくださいます。ただ、彼が私たちを連れ去りに来られるとき、私たちが御父に仕えているところを見たいと願っておられます。ですから、もちろん私たちは、主にお会いするのを待ち望むべきです。聖書には、パウロが次のように書いています。

7 私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。

8 今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるのです。私だけでなく、主の現れを慕っている者には、だれにでも授けてくださるのです。

(第二テモテ 4:7~8)

ですから、私たち、主がすぐに戻って来られるのを待っている者、全員です。しかし、それまでは、私たちは御父のビジネスに勤しむのです。

そうです。心は、そこにあるべきです。

「主よ。来てください。」

「イエス様、来てください。」

私たちの心は、このようにあるべきです。

17 御霊も花嫁も言う。「来てください。」

(黙示録 22:17)

しかし、主が来られるまでは、しっかりと従事しましょう。

素晴らしいじゃないですか！今日のような事が起こった日、イランのゴタゴタが勝利した時、シリアが自慢している時、レバノンのヒズボラが自慢している時、このような日、私たちは励まされます。イスラエルの神は、ただ眠らず、まどろむこともないだけでなく、彼は、ただ私たちを守られるだけでなく、イスラエル人は、1人も死ななかつたのです。何百発というロケットが発射されたのに、誰も死ななかつたのです。しかし、さらに、私たちは、もう一度言えるのです。

「イエスは救う。」

「イエスが唯一の道であり、真理であり、いのちである。」

イエスが、ヒズボラが父のみもとに行く唯一の道。

イエスが、ISISが父のみもとに行く唯一の道。

イエスが、イラン人が父のみもとに行く唯一の道。

他に神はおらず、他にメシアはいません。イエスご自身、イエシュア、ハメシュア以外、他に道はなく、真理



はなく、いのちはありません。彼が救い主です。シメオンは、主が生後8日の時に、主を抱いて言いました。

### 32 異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの光栄です。

(ルカ 2:32)

今日はお付き合いいただき、ありがとうございました。今日起こったことの全てを、出来るだけ皆さんにお知らせしてみました。これからも、フェイスブック、ユーチューブで Behold Israel をフォローしてください。ユーチューブでは、どうか Behold Israel のチャンネル登録をしてください。もう少しで 70,000 人に達します。これはかなりすごい事です。それから、インスタグラムでは、イスラエルや、私のツアー先のすごい写真をご覧になれます。「beholdisrael」続けて一語です。ぜひフォローしてください。

I love you all! ガリラヤより、シャバット・シャローム！世界中のどこにいても、平安で安息日をお過ごしください。世界の一部では、もうすでに日曜日だとは思いますが。明日から、ハッカビー議員（書記注：アメリカ、共和党、元アーカンソー州知事）のツアーが始まります。私は、7人のガイドのうちの1人ですが、約300人のツアーで、忙しくなります。彼と、彼の奥さんのジャネットと、ご家族と一緒に写真を撮って投稿します。もちろん、ツアーの他の方たちとも。ですから、インスタグラムをフォローしてください。「beholdisrael」です。ユーチューブチャンネルもご登録ください。それから、全てのニュースをまとめたニュースレターをご希望の方は、ウェブサイト Behold Israel.org より、ニュースレターを登録してください。

ありがとうございます。God bless you! ガリラヤより、シャローム！さようなら。

---

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>